

議事録 東海村男女共同参画推進委員会（令和元年度第1回）

1 日時

令和元年6月28日（金） 18:30～20:30

2 場所

東海村役場 行政棟3階 庁議室

3 出席者

(1) 東海村男女共同参画推進委員会委員

	氏名	出欠		氏名	出欠
1	鎌田 まり	○	6	高橋 琢	○
2	戸部 万亀子	×	7	田川 大輔	○
3	渡部 晃子	×	8	橋本 年雄	○
4	北野 千恵子	○	9	俵田 憲諭	×
5	佐藤 高雅	×	10	茂木 智子	○

(2) 事務局（東海村企画総務部秘書広報課）

企画総務部 部長 箭原 智浩
秘書広報課 課長 秋山 尊道
課長補佐 田寄 由美子
主事 川崎 彰利

4 議事

(1) 委員長及び副委員長選出

① 内容

委員の互選により、委員長及び副委員長を決定する。

② 結果

委員長は鎌田委員，副委員長は戸部委員を選任した。

(2) 東海村の女性活躍・男女共同参画推進への取組みについて

① 内容

議事の(2)について、事務局から説明を行い、質疑応答・意見交換等協議する。

② 結果

事業内容及び委員会の活動内容について、了承した。

(3) 東海村男女共同参画推進事業所について

① 内容

議事の(3)について、事務局から説明を行い、質疑応答・意見交換等協議する。

② 結果

委員からの意見を参考として、令和元年度の事業を実施する。

③ 主な意見

- 事業所は男女共同参画推進事業所への認定をあまりメリットに感じていないと思われる。
- 認定事業所へのフォローとして、実績報告など役場から認定事業所へのコンタクトが必要。
- 「いずれか」の項目を満たせば認定される現在の認定基準は、認定のハードルが低く、認定事業所の「特別感」があまり感じられない。
- 「何項目満たした場合に認定される」等、ハードルを高くしてもよいのではないか。
- 認定の価値を上げ、事業所の人材確保に繋がるような賞にしたほうが、事業所の応募促進にも繋がる。
- 事業を活性化させる仕組みとして、満たす項目数によって金・銀・銅のように認定をランク付けしてはどうか。
- 認定基準についても重要な項目は高配点とするなど、ランク付けをしてはどうか。
- 認定事業所をPRしようとした場合、本気で男女共同参画・女性活躍推進に取り組んでいる事業所でなければ、目を惹くPRは難しい。

(4) 女性活躍推進のための標語について

① 内容

議事の(4)について、事務局から説明を行い、質疑応答・意見交換等協議する。

② 結果

委員からの意見を参考として、令和元年度の事業を実施する。

③ 主な意見

- 対象者は小中学生、高校生に限るのではなく、社会人部門として大人が応募できてよいのではないか。
- 子どもが学校で配布されたチラシを持ち帰ってきたが、学校の先生からは何の説明もなく、ただ配布されただけだったという。配布の際にも事業や男女共同参画・女性活躍推進に関する説明やPRをしてもらったほうがよい。
- 「子どもだけでなく、保護者も一緒になって考える」という主旨であれば、その旨チラシに記載するとよい。
- 推進事業所からも募ったらよいのではないか。
- 入賞作品（特に最優秀作品）は人目につくようにPRするなど、活用を検討してはどうか。
- 入賞作品の活用に関しては、図書館など子どもが多く集まる場所に掲示するなどしてはどうか。

(5) 「第4次東海村男女共同参画行動計画」推進のための実績報告（平成30年度）と取組目標（令和元年度）について

① 内容

議事の(5)について、事務局から説明を行い、質疑応答・意見交換等協議する。

② 主な意見

➤ 能力主義で性別に関わりなく昇進できる制度が広まるとよい。

(6) 東海村男女共同参画住民意識調査について

① 内容

議事の(6)について、事務局から説明を行い、質疑応答・意見交換等協議する。

④ 結果

委員からの意見を参考として、令和元年度の事業を実施する。

② 主な意見

➤ 回収率を上げるための工夫が必要。

➤ 質問が多すぎると回答するモチベーションが下がるので、20問程度でよい。

➤ 労働者としての意見または労働環境の実態が汲み取れるような調査項目を設定した方がよい。例えば、過去に退職した理由が「結婚」で終わるのではなく、「結婚した結果、どのような事情で退職せざるを得なかったのか」というような労働環境が掘り下げられるように設定できるとよい。

➤ 行政の施策について、「●●を知っているか」というような聞き方をした場合、「知らない」と回答した方について、「どのような伝え方をすれば伝わるか」等、今後の事業展開に繋がるような調査項目を設定できるとよい。

➤ 「知らない」と回答した方の意見も大事にするべき。

➤ 回答者の属性情報として、労働環境（正規、非正規、パート、パート（季節労働者）等）を把握できる調査項目を設定した方がよい。

5 次回開催

令和元年9月を予定